

寄稿

「大地の恵み」を

市民の暮らしに活かそう

「おだわらを拓く力」 加藤憲一

小田原の

自然の現状

富士、箱根、丹沢、曾我の山々、幾つもの川の潤い、広大な山林と肥沃な田圃、国内有数の好漁場である相模湾。小田原最大の資産のひとつは、紛れもなくこの豊かで多様な自然環境にあります。

「み」は暮らしの中でほとんど享受されていないのが現状です。気がつけば、森は荒れ、里山や田畑は放棄が進み、植生や生態系の破壊などが確実に進んでいます。

久野の苗木生産業、江之浦の定置網漁業、曾我での自然農、子どもと自然の接点づくり、地場産業の研究などを通じ、私はこの地域の「大地の恵み」の素晴らし

市民活動の

フィールドに

私は、そのために自然環境を農林漁業の場としてだけでなく、むしろ教育や市民活動、芸術や文化を育むフィールドとしても開いていくのが良いと考えます。

訪れる人も大幅に増え、就業機会の拡大にもなります。

例えば、森、ドイツで普及している「森の保育園」のように、森を子育てのフィールドとして整備する。あるいは、八ヶ岳周辺に見られるような、工芸や文化の拠点が点在する森をつくる。森の癒しと包容力は、訪れる市民に大きな活力を与えるでしょう。

例えば、農、地産地消を進め、市民農の普及を促進する。暮らしに農を取り入れることで、担い手も増え、農地も景観も環境も、人のいのちも守られます。



かとうけんいち：1964年小田原生まれ、39歳。小田原高校、京都大学法学部卒。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体事務局長、農・林・漁業、あしがら農の会代表、ほっとファイブダウン理事、小田原市政総研市民研究員などを経て、現在オービックビル事務局長。妻と子ども二人の4人家族。趣味は山登り。

「おだわらを拓く力」

（加藤けんいち後援会）
代表／飯田和
小田原市栄町2-9-46
オービックビル2F
TEL&FAX 0465-22-6695
http://www.lop-nur.com/katoken-power/
katoken-power@lop-nur.com
HPに日記掲載中
スタッフ募集中！